

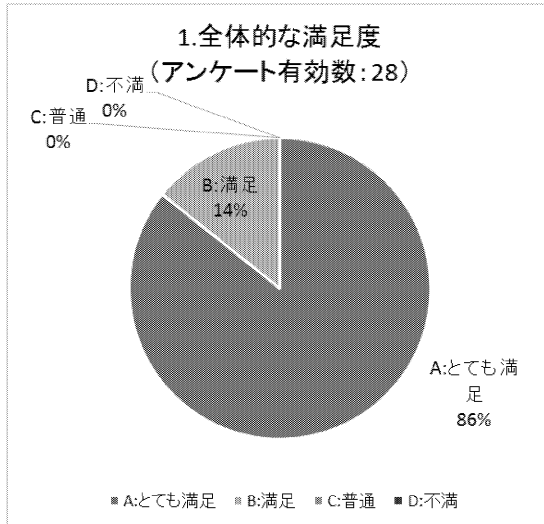
第Ⅱ章

コメントと提案

1. 中国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 受入れ校
4. プログラム主催者・実施者

1. 中国教職員

◆質問 1. 全体的な満足度



【主な意見】*原文は中国語

A-1 黄小華 (とても満足)

時間の段取りがきちんとしていて、スタッフの心使いも細やかだった。大いに勉強になりました。どうもありがとうございました。

A-3 陳文濤 (とても満足)

活動のスケジュールは合理的で充実していた。全面かつ詳しく日本の教育の状況を知ることができた。プログラムの運営が非常にスムーズだった。

A-6 干定雄 (とても満足)

とても満足している。小学校や中学校、高校、大学への訪問を通じて、日本の初等中等教育と高等教育への理解を深めた。特に学校のカリキュラムの設置や、生徒の部活動について理解を深めた。

A-20 高睿 (とても満足)

毎日のスケジュールと活動などを見ると、今回のプログラムは合理的で、段取り良く進められていた。細かいところまで気を使ってくださり、ミスがなかったことを見習いたい。

◆質問 2. 参加目的は何か

【主な意見】*原文は中国語

A-1 黄小華

日本の初等中等教育の状況を知り、両国の友情を深めたい。

A-8 劉海燕

日本の初等中等教育の基本状況を知り、日本の教育の伝統的なやり方、先進的な理念を学び、両国の教職員の友情を深めたい。

A-11 張紅剛

日本の先進的な教育理念と実際の状況と見合う着実な仕事ぶりを見習い、積極的に関連機関との連携の機会を作りたい。

A-20 高睿

日本の初等中等教育の状況を観察し、体験することによって、日本の教育制度はどのように児童・生徒の成長に影響を与えたのか、彼らの知識欲をいかにそそったのか、さらに高等教育にどのような影響を及ぼしたのかを分析する。また、創造する能力の育成は初等中等教育の段階においてどのように進めたらよいのかを探求していきたい。

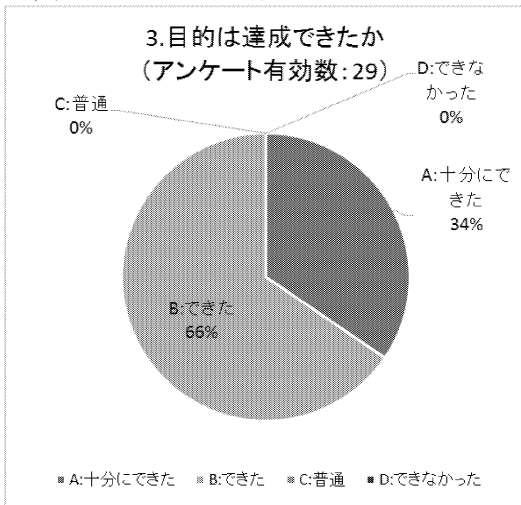
A-27 胡闊玲

日本の小学校のカリキュラムの設置と実施、学校文化及び総合実践教育を知りたい。また、児童・生徒の評価方法など日本の先進的な教育理念と経験を学びたい。

A-29 馮紅

日本の小学校におけるカリキュラムの改革、教師の評価基準、進学状況を知りたい。

◆質問3. 目的は達成できたか



【主な意見】*原文は中国語

A-1 黄小華 (できた)

日本の初等中等教育のシステム、教育の内容、人材育成、管理などについて全面的に知ることができました。また、日本教職員の友人もたくさん作り、深い友情を生み出しました。

A-2 劉文偉 (できた)

日本の小学校、中学校、高校の教育の概況を基本的に理解できました。時間の制限や言語の壁により、まだ十分に理解できたとは言いがたいので、これから更に理解を深める必要があります。

A-7 潘惠玲 (十分にできた)

日本の教員との交流を通じて、日本の初等中等教育から見習うべきことをたくさん発見しました。

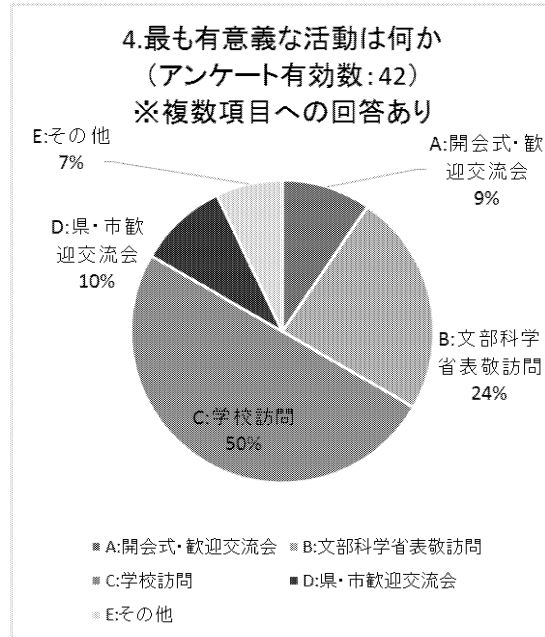
A-27 胡闊玲 (できた)

訪問した学校のカリキュラムは学生のニーズを踏まえて設置され、多様である。学校文化は伝統的かつ特色的である。子どもたちに自己表現する機会を設けている。「もったいない」精神を育てている。教師と子どもが共に課題を解決する参加型学習の授業を見学させていただいた。ただし、児童・生徒の評価方法についての理解はまだ不十分である。

A-29 馮紅 (できた)

今回の訪問を通じて、日本の教育の全体像を知ることができた。特に横浜市教育委員会の教育振興基本計画は印象深かった。現場の学校を訪問し、人材育成の理念を身をもって理解した。

◆質問4. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】*原文は中国語

A-3 陳文濤 (文部科学省表敬訪問、学校訪問、横浜市表敬訪問)

実質的な内容で、多くの情報を得られた。

A-7 潘惠玲 (学校訪問)

実際に学校を回って授業を見学することで、日本の初等中等教育の本当の様子を知ることができました。

A-8 劉海燕 (開会式・歓迎交流会、文部科学省表敬訪問、学校訪問)

開会式・歓迎交流会：温かいおもてなしを感じた。

文部科学省表敬訪問：日本教育の全体の状況を知ることができた。

学校訪問：学校の普段の授業を体験できたので、とても勉強になった。

A-17 王曦（学校訪問）

学校に入り、日本の初等中等教育における次代を担う生徒の育成教育を自分の目で確かめた。特に①食教育②感謝の気持ちを育ませる教育③「もったいない」精神の教育④自立心を育てる教育は日本の初等中等教育において着実にに行われていることが分かった。なお、日本の初等中等教育の教師の仕事に対する情熱と責任感を感じた。

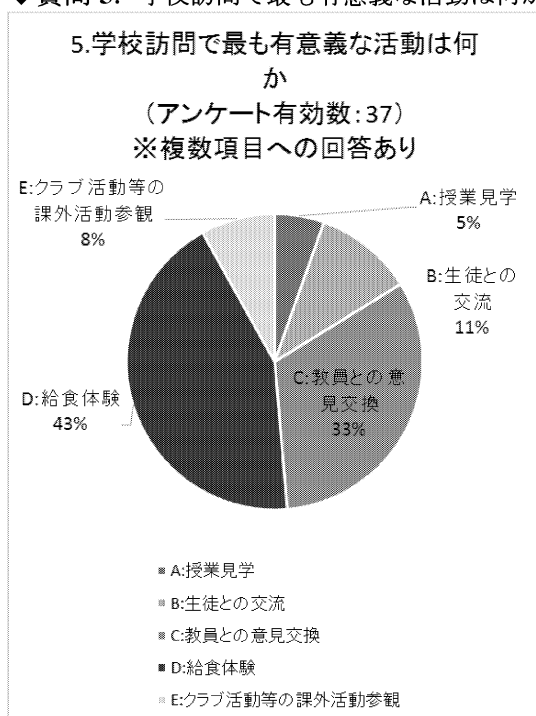
A-18 劉昌斌（歓迎交流会）

和気あいあいとした雰囲気の中、日中の教職員たちと面と向かって交流し合い、実り多い交流会となった。時々お互い通じなかったが、通訳さんのおかげで何となくコミュニケーションが達成できた。

A-27 胡蘭玲（文部科学省表敬訪問）

文部科学省へ表敬訪問し、日本の教育改革の方向性を知り、とても勉強になった。今後日本の教育は生徒の自律学習の能力を育成したり、アクティブ・ラーニングの実践と普及をしたりすることに力を入れると聞き、啓発を受けた。

◆質問 5. 学校訪問で最も有意義な活動は何か



【主な意見】*原文は中国語

A-1 黄小華（クラブ活動等の課外活動参観）

先生及び生徒と互いに交流することができました。

A-6 干定雄（教員との意見交換、給食体験）

シンプルな学食、七割程度の満腹感の習慣、シンプルな生活の習慣づけなどは日本人の生活態度を反映していると思います。食堂をきれいにすること、振り分けて掃除することなどは日本人の環境への配慮、労働の習慣づけ、チームワークの精神を表しているだけでなく、日本社会のきめ細かいところまで注意していることを反映していると思います。

A-9 沈玉榮（給食体験）

給食体験を通じて、学生の健康を管理し、学生の自律能力を育てるための日本の具体的な取り組みを直接理解できました。

A-14 瀋陽（生徒との交流）

学生との交流を通じて、日本の子どもは中国の子どもと同じく知識への好奇心が強く、無邪気で可愛いと感じました。

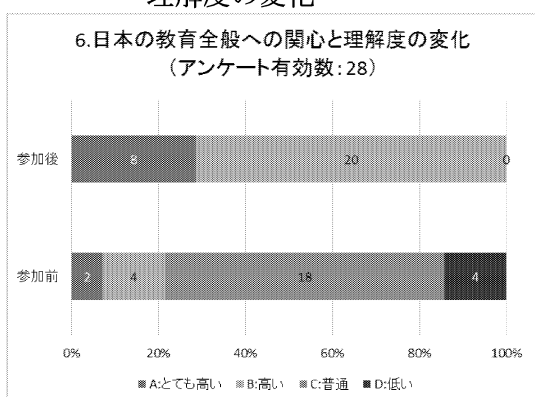
A-22 沙涛（教員との意見交換、給食体験）

子供と給食を取ることを通して、日本の子供の行動パターンや考えを知ることができた。教員と意見交換することを通して、日本の教師は生徒に対する愛情と仕事内容を知ることができた。

A-29 馮紅（授業見学、教員との意見交換）

授業見学を一番楽しみにしていた。授業見学を通して実り多い成果を収めた。授業中、教師と生徒はお互いに交流し合い、和気藹々とした雰囲気であった。生徒は授業を聞きながらメモを取り、真面目に勉強する姿が深く印象に残った。私が二つの活動を選んだ理由は、日本の教育を理解するには一番肌で日本の教育現場を感じるができる活動だと思うからだ。

◆質問 6. 日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】*原文は中国語

A-2 劉文偉 (低い→高い)

参加する前は、日本は教育において総合的に児童・生徒の各能力を育てることに力を入れていると聞いていた。参加後は、日本の初等中等教育の主な目標や具体的な取り組みについての基本的なことを知ることができた。

A-5 周徳勇 (普通→高い)

今回の学校、政府機関や社会団体への訪問や見学を通じて、日本教育の現状について考えさせていただいたことが多いので、関心も大幅に高まった。

A-15 李玲 (普通→高い)

日本の初等中等教育に対する理解を深めました。これからも日本の初等中等教育に関心を寄せたい。

A-20 高睿 (普通→とても高い)

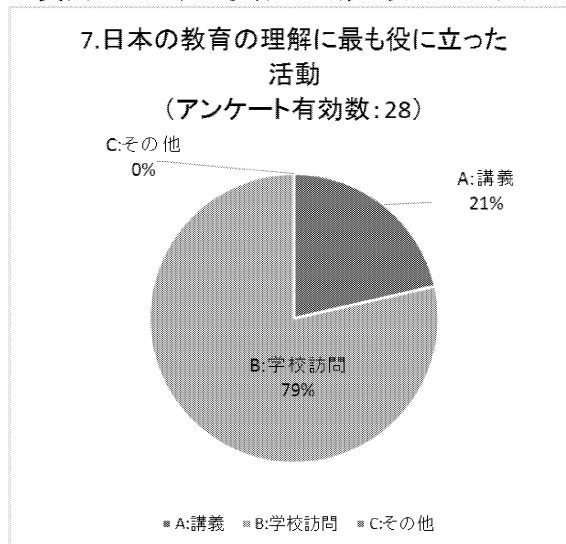
日本では社会のニーズに応え、人間味あふれる教育理念と教育制度を推し進めている。また、安全、環境などの要素を取り入れた教育施設と人身保障施設を活用しており、特に食品安全を重要視していることに非常に感服している。

A-23 陳昭亮 (高い→とても高い)

日本は生徒の学習意欲の促進と向上にたくさん取り組みをしていることが分かった。例えば児童・生徒は積極的にグループディスカッションに参加し、自分なりの考えを述べるといったことが挙げられる。また、

部活の種類は多く、学生の参加度は高い。

◆質問 7. 日本の教育の理解に役立った項目



【主な意見】*原文は中国語

A-11 張紅剛 (学校訪問)

自分の目で実際の様子を見ることができた。

A-14 瀋陽 (講義)

講義を通して、効率よく日本の教育の概要を知ることができた。

A-18 劉昌斌 (講義)

講義を通して、教育と組織の体制を知ることができた。

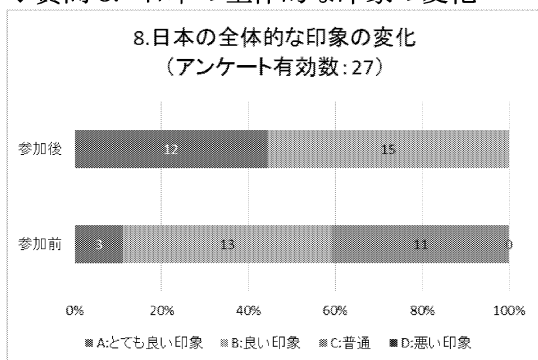
A-25 陶軍 (学校訪問)

限られた時間の中でも、効率よく日本の教育の状況を知ることができた。

A-27 胡闢玲 (講義、学校訪問)

日本の教育への理解を得るために講義と学校訪問は相互補完的な関係であり、両方も欠かせない大切な項目である。ところで、社会資源は教育においてどのような役割を果たしているのか?具体的な例を教えていただければ助かる。

◆質問 8. 日本の全体的な印象の変化



【主な意見】*原文は中国語

A-5 周徳勇 (普通→良い)

見学、訪問を通じて、日本国民の情熱に溢れているところや真面目なところを感じた。また、環境への配慮の意識が高いことも感じた。

A-11 張紅剛 (良い→とても良い)

スタッフが親切で配慮が行き届いていた。

A-17 王曦 (普通→良い)

日本人は謙虚で、礼儀正しい。真面目で、細かいところまで行き届いている。他人に迷惑をかけない美德を持ち、資源を大切にしている。

A-23 陳昭亮 (普通→良い印象)

時間厳守。集合であれ、会議であれ時間管理の意識が強い。また、社会規則を守る意識が強い。例えばゴミの分別、給食体験など。

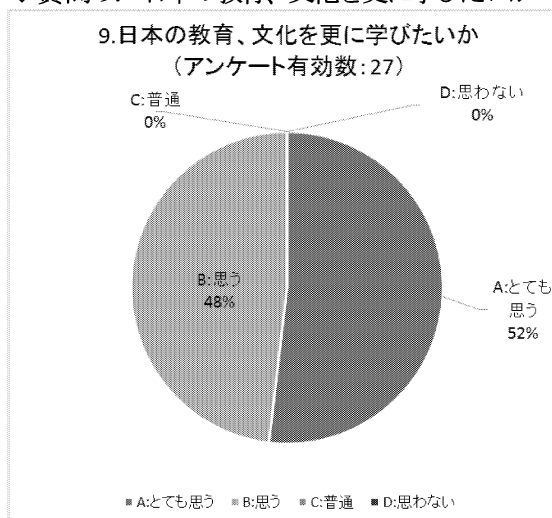
A-29 馮紅 (とても良い→とても良い)

日本の社会秩序が良く、エコ意識が高い。しかもそのような意識と理念は着実に実行に移している。例えば、生徒自分で廊下、トイレを掃除したり、牛乳パックを回収したりしている。また、公共の場で大きな声を出さないことから、日本国民が高い教養を持っていると感じた。

A-30 尹相偉 (普通→良い印象)

日本人は規則を真面目に守り礼儀正しい。しかも幼い頃から良い習慣を身につけ、規則を守ろうとする意識が高い。

◆質問 9. 日本の教育、文化を更に学びたいか



【主な意見】*原文は中国語

A-5 周徳勇 (思う)

日本の教育と発展について我々が見習い、参考にするべきものが少くないので、今後も更に交流を深め、理解するべきだと思う。

A-7 潘惠玲 (とても思う)

日本の初等中等教育段階のクラスでの授業について、もっと詳しく知りたい。

A-14 瀋陽 (とても思う)

私は高校の教師ですが、残念ながら今回は日本の高校の状況を十分に知ることができませんでした。機会があれば、日本の高校生の状況を知りたい。

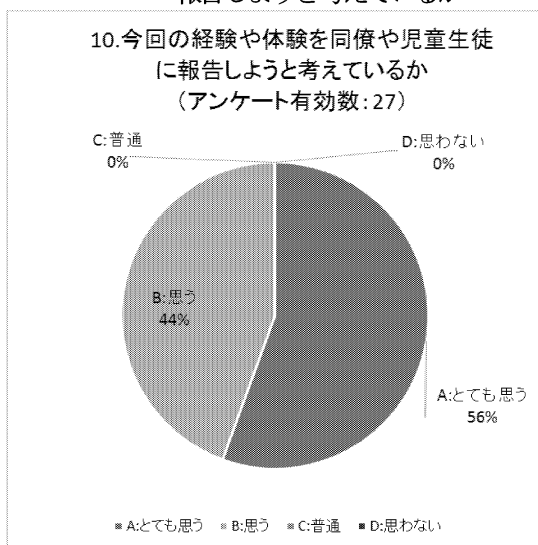
A-16 黄斌 (とても思う)

日本の教育方法、日本文化の素晴らしいところをさらに学びたい。同時に日本の方々に中国を紹介することを通じて、両国の国民の友好関係を深めていきたい。

A-19 王尚明 (思う)

高等教育における先進的な理念と経験を学びたい。

◆質問 10. プログラム体験を生徒や同僚に報告しようと考えているか



【主な意見】*原文は中国語

A-4 張悦 (思う)

日本の教室、施設等は効率良く使われています。そして管理システムも健全でカリキュラムの設置も生活感があり、科学的かつ合理的です。

A-8 劉海燕 (とても思う)

先生たちの視野を広げ、日本を見習い、学校の教育レベルを高めたいと思います。

A-9 沈玉榮 (思う)

もっと多くの人に日本の初等中等教育と文化を知ってほしいです。

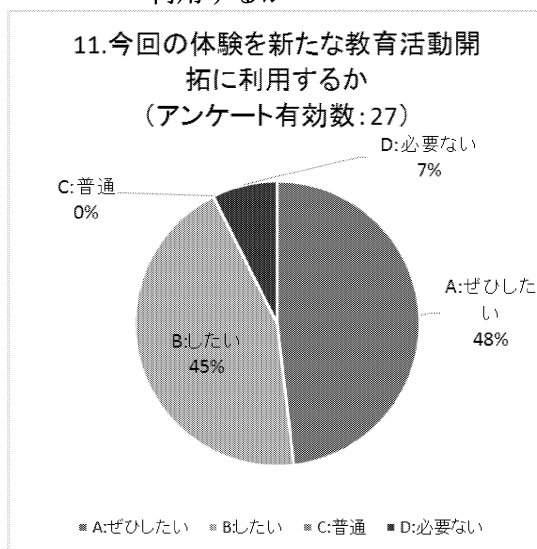
A-18 劉昌斌 (とても思う)

日本について同僚と生徒にさらに知ってもらいたい。他人の長所を見習い、自分の短所を補うことにつなげたい。

A-20 高睿 (とても思う)

今回のプログラムを通して見たことや感じたことを身の周りの人にシェアしていきたい。皆さんと交流会を開き、交流し合い、日中両国の教育について探求する予定である。もっと多くの人々と国々は子どもの未来を見守っていただき、教育をさらに発展させていきたい。

◆質問 11. 今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】*原文は中国語

A-5 周徳勇 (ぜひしたい)

児童・生徒一人一人に関心を持って、彼らの興味を引き出すことなどに生かしたいと思う。

A-7 潘惠玲 (ぜひしたい)

わが国の児童・生徒の実践能力と独自に生活する能力をさらに育てる必要があると思います。これを自分の授業に取り入れて、少しずつ子どもたちが自ら考え、手を動かす能力を育てたいと思う。

A-10 夏松明 (したい)

学校に戻った後、生活のマナーの授業を取り入れたいと考えています。

A-21 秦天紅 (したい)

私は教育庁に勤務しているため、直接に体験したことを教育現場に活用する機会は少ないが、今回日本の教育現場で見たことや体験したことを周りの人に伝え、良い影響を与えたい。

A-27 胡闘玲 (ぜひしたい)

「アクティブ・ラーニング」の教育改革の流れにおいて、教師は児童・生徒が学ぶ方法を身につけるよう指導する必要がある。生徒の学ぶ能力を高め、変化の激しい社会

を生き抜くことができるような、総合的な教養を培っていききたい。

A-30 尹相偉（したい）

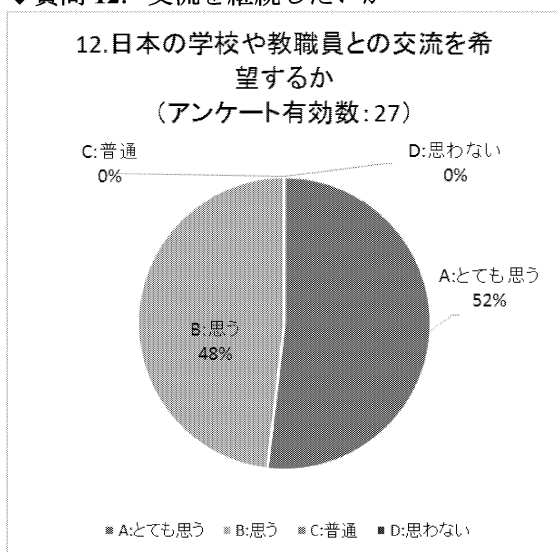
具体的な計画を考えている。日本の「家庭科」を中国の小学校に導入することによって、現在中国で実施している「労働」という科目を改善してみたい。

近年訪問が途切れている。今回の訪問をきっかけに、友好関係を再構築したい。

A-25 陶軍（とても思う）

現在の交流活動を踏まえてカリキュラムや授業の設置についての交流を深めたい。教育を紹介するだけでなく、普段の授業で交流することを望んでいる。

◆質問 12. 交流を継続したいか



【主な意見】*原文は中国語

A-2 劉文偉（思う）

天津大学に戻った後、日本の京都産業大学と連携し、交流を深めたいです。

A-3 陳文濤（とても思う）

今後更に交流を深め、テーマごとに理解を深めることが必要です。例えば、「教育の質を高める」、「教員研修の有効性」等の内容について深く理解し、表面的にだけ理解することを避けるべきです。

A-8 劉海燕（思う）

互いに訪問し、学校間交流を深めるほか教育シンポジウムを開催したい。また、児童・生徒間の交流も展開したいと思います。

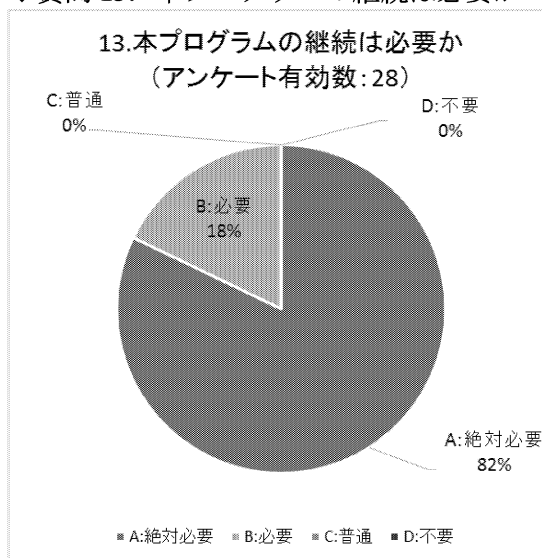
A-17 王曦（思う）

私の勤めている成都二十中学校は 1997 年にて広島の高校と友好連携関係を構築した。同校とは五回にわたり訪問交流を行ったが、

A-29 馮紅（とても思う）

日本の教員との交流をさらに深めたい。なぜかという、日中の教育の課題、日本の教育に対する興味を持っていることなどが山のようにあるからである。しかし、毎回の学校訪問の時間は非常に限られており、十分に意見を交わしたとは言い難く、よりじっくり交流を深めたいと思う。私の勤めている北京市第二小学校は日本の小学校と友好連携関係を構築していきたいと思っている。教職員同士でも子ども同士でも、できるだけ多くの相互交流の機会を設けていきたい。

◆質問 13. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】*原文は中国語

A-4 張悦（絶対必要）

中日双方の教員が直接交流し、理解を深めることを促進しているので、とても必要です。

A-9 沈玉栄（絶対必要）
百聞は一見に如かず。

A-12 李紅林（絶対必要）
今回のプログラムを通じて日本の教育、環境への配慮、礼儀正しさなどの優れた民族性に感銘を受けました。このプログラムを通して教育者と児童・生徒の相互理解を深め、両国の友情を深めることができると信じています。

A-22 沙濤（絶対必要）
より多くの中国の教職員に、日本のことや日本の先進的な教育理念などを知ってもらいたい。

A-26 王穎（絶対必要）
このプログラムにより中国の教師は身をもって異なる国の教育理念と実践を知ることができ、中国の教育への反省を促すこともできる。また、日中両国の子どもたちの相互理解の促進にもつながる。

A-27 胡闊玲（絶対必要）
教育に国境はない。どの国でも人材育成に力を入れている。国情は異なっているが教育理念に関する共通点はある。教職員も子どもたちも、国際的な視野を持つべきである。

◆質問 14.その他気付いた点

A-1 黄小華
日本の環境への配慮、低炭素消費等への取り組みが印象深かった。

A-7 潘惠玲
日本の初等中等教育の施設は質素に見えるが、実用性が高い。これは子どもの想像力を育てるのによいと考える。また、近視の子どもが少ないように見受けられたが、これもとてもよい。

A-11 張紅剛
日本のマナー教育、家庭教育、労働教育などが児童・生徒の心に深く入り込んでいる戸感じた。それは中国の先生が反省し、見習うべきところの一つだと思う。

A-25 陶軍
日本の人々は環境保護や衛生管理に対する意識が高く、礼儀正しい。

A-26 王穎
予め給食のメニューを作り、毎月保護者に送るというサービスが素晴らしい。

A-29 馮紅
学校におけるゴミの分別の表示が目に残った。また、小学校における給食後の掃除や、教室の環境づくりも興味深かった。

A-30 尹相偉
日本の生徒や保護者との交流会を行っていただけだと思う。

2. 受入れ教育委員会

●横浜市教育委員会

国際教育課 首席指導主事

山 義明

プログラムの全体的な印象

- 横浜の教育制度、学校教育の現状や特色ある取組を中国教職員に紹介することを通して、また、学校等での意見交換を通じて、日中の教育について理解を深めることができました。特に、外国から編入、来日直後の保護者・児童生徒を対象とした「学校ガイダンス」を母語で体験していただいたことは有意義だったと思います。
また、訪問した学校等での交流を通じて、今後、日中の教職員のネットワークの構築や日中間の相互理解と友好の促進にも寄与できると考えられます。

プログラム成果

- 訪問受入れを行った3つの小中学校では、相互の意見交換や中国教職員による授業などを通じた直接の触れ合いがあり、中国の教職員はもとより、受入れた学校にとっても国際交流の機会となりました。

苦勞した点

- 第1日目、教育長表敬から始まり、日本語支援拠点施設「ひまわり」、南吉田小学校、そして日本語支援拠点施設「ひまわり」に戻るというプログラムが中国教職員にとって過密であったのではないかと思います。

加えるとよいと思われる活動

- 既にありますが、「交流授業」の充実。実際に中国教職員に授業していただくと、児童生徒にも印象が強に残ります。

プログラム改善に向けた助言

- 経費の関係は、行政機関によって様々な処理方法があるので、柔軟性を持って扱えるとさらに良いと思いました。
- 教育関係であることから、民間企業や工場などの見学の実施はなかなか難しいと思いました。

3. 受入れ校

●桜美林中学校・高等学校 教頭 若井 一朗

プログラムの全体的な印象

- 中国から来られた方々が非常に熱心に見学されていることに驚きました。中国の教育熱を感じました。
- 体育が入試の評価に加わるかという質問には、文化の事情の違いを感じました。

プログラム成果

- 多くの教職員との意見交流が有意義でした。

苦勞した点

- 道路事情や中国の方々の時間の感覚もあり、限られた時間におさめるのが大変でした。

加えるとよいと思われる活動

- お互いに言語のカベさえなければ、懇親会などのようなスタイルで情報交換できれば楽しいと思います。

プログラム改善に向けた助言

- 今回来日された方々は、管理職の方が多く、そのような方々が来れるのであれば、こちらも校長・教頭レベルで話し合いをした方がよいかもしれません。

●横浜市立南吉田小学校 副校長 松永 史郎

プログラムの全体的な印象

- 友好的な雰囲気の中で、交流を進められて良かったと思います。限られた時間ではありましたが、本校の現状や取組を理解していただく時間がとれたこと、中国の学校教育の現状(力を入れていること、日本との類似点・相違点)などについてお話を聞いたことが特に有意義でした。

プログラム成果

- 中国からの転編入者が急増している本校で、本国の先生方に、課題も含めて日本の公教育について見ていただき、理解していただくことは必要でした。その機会を得られて良かったと思います。
- また、普段、言葉の問題などで苦勞している子ども達にとっても、いつもとは違ったところで活躍する場が与えられたと思います。

苦勞した点

- 給食交流自体は有効でしたが、40食増やすということで、食器の確保なども含め、栄養士・調理員に負担をかけてしまいました。

加えるとよいと思われる活動

- 日中の先生方同士で小グループでの話し合い・交流などの時間がとれるとさらに相互理解深められるのではないかと思います。

プログラム改善に向けた助言

- 日本は今後ますます多文化共生の必要性が増していくのではないかと、いうことを日々実感している本校です。困難も多いでしょうが、有効な交流事業を継続発展させていきたいと思っています。

●横浜市立小机小学校
副校長 赤坂 桂

プログラムの全体的な印象

- 中国の教職員の方々が非常に熱心に見学していた。特に「総合的な学習の時間」や「給食指導」に関心を持っているようだった。
- 「子どもたちが学習に意欲的だ」や「みんなが挨拶を進んでするのに驚いた」という感想をいただいた。日々、学校として重点を置いて取り組んでいる教育活動の成果が認められ、うれしかった。

プログラム成果

- 多くの子どもたちが中国の方をお迎えすることを楽しみにしていた。たくさんの方に来ていただいたことで接する機会・時間が多かったことは効果的だった。
- 授業していただいたおかげで子どもたちの興味が深まった。

苦勞した点

- 来校する人数や給食を召し上がるかなど具体情報が間際になるまでわからなかったこと。また、来校の目的や要望が見えないまま計画や準備を進めなければならなかったこと。
- あちらからいただくお土産に対し、こちらから出せるものが予算的に釣り合わないこと。
- 「お茶は温かいものしかほとんど飲まない」というような情報をあらかじめ知らせてくれると助かる。

加えるとよいと思われる活動

- 子どもたちは反対に中国の学校の様子に興味をもっていた。授業をしていただくならあちらの授業風景などの動画があるとよい。

プログラム改善に向けた助言

- かなりの先生がスマホで写真や動画を撮っていた。また、その場で中国現地の方とやり取りしている方もいた。「公開しない」という前提だが、守られるのか心配になった。
- 授業していただいた先生からお土産をもらったクラスがあったが、他のクラスはなかったので配慮が必要だった。

●横浜市立日限山中学校

校長 菱刈 範之

プログラムの全体的な印象

- 中国の訪問団は、優秀な学校の、優秀な生徒を相手にしている、優秀な先生方であったので、日本の中学校の教員が抱える、不登校や勉強がわからない等の悩みを持つ子供にどう対応するかの話はなかった。
- 評価、ランク付け、論文、表彰、補習等の単語が多く聞かれ、先生も生徒も競争させられていることが想像できる意見交換会であった。それでも意見交換会が持てたことが素晴らしい。

プログラム成果

- 本校の教員にとっては、全く異なる教育観に触れることができたのではないか。このことがそれぞれの教員の体験となって生かされるに違いない。
- 中国の先生方には、良くも悪くも、ありのままの日本の教育をお見せすることができたと思う。日中の相互理解に少しは生かされるのではないか。

苦勞した点

- 定期テストの最終日であり、生徒の活動している姿を見ていただくのが、部活動だけであったことが残念。
- 意見交換会は通訳を介しての 50 分ほどであったので、時間的には不十分であった。

加えるとよいと思われる活動

- 現状では、この内容で限界ではないか。本校の場合は、テスト最終日であったことから意見交換会ができたが、通常では難しい。単に訪問・見学していただく以上の成果が本校にはあったように思う。

プログラム改善に向けた助言

- 国が教育に対してどう考えるのかの違いはあると思うが、エリート教育ではなく、普通の教育を語れる場であればなお良い。特別支援教育をどう考えるのか等。

●京都教育大学附属桃山中学校
教頭 津村 正樹

プログラムの全体的な印象

- 中国の先生方が、たいへん熱心に研修されていることに感銘を受けました。特に、教育大学の附属学校である本校が、大学と連携した教育をどのように進めているのかについて、また本校が帰国生徒のための学級を特設して教育をおこなっていることから、受入制度や一般学級での指導との違いなどに興味を強く持たれた様子でした。教員間交流の場でも積極的に質問や意見を述べられる方が多く、意見交換するなかで、本校としてもあらためて本校教育を振り返る機会となり、大変有意義な交流となりました。

プログラム成果

- 短時間でしたが、日本の中学校の各教科の普段の授業の様子を参観していただくことができました。その中でも帰国生徒学級では、中国からの帰国生徒と中国教職員の方とで、中国語で対話する場面があり、和やかな雰囲気の中で、他の生徒も、中国についてさらに理解が深められたと思います。教員間交流においても、本校の教育活動の説明をもとに積極的な意見交換が行われ、お互いの国の教育課題について知ることができました。

苦勞した点

- 教師間の交流に重点をおくことを考えましたが、平日の午前でそれぞれ授業担当があるために参加できる教員に限られ、参加教員の確保が困難でした。午前中の2時間半の短い時間枠で、授業参観、教員間交流等を計画するプログラムでしたので、中国の教職員の方の期待に応えられたかどうか不安です。

プログラム改善に向けた助言

- 約2時間半という短い時間では、やはり、日本の中学校の授業を参観する(生徒との交流を含めて)ことや、教師間交流のそれぞれを一定程度満たしていくことは難しいと感じました。訪問交流のねらいを絞ったり、あるいは所要時間を増やしたりして、中身をより充実させていくことも必要であると思いました。

●京都産業大学外国語学部
教授 関 光世

プログラムの全体的な印象

- 先生方が学生たちのスピーチに教員としての目線でアドバイスを下さったことが学生たちにとって大変印象深かったようです。特に、公の場でスピーチする際には、物事の一面だけを取り上げて話すのではなく、悪い面と良い面、のように両方から話すべきだというご指摘をいただき、学生も大変納得していました。

プログラム成果

- 普段は接することの少ない目上の中国の方々との交流は大変新鮮であったようです。

苦勞した点

- 苦勞した点、困難であった事は特にございません。
大人数であったため、すべての先生に有意義な交流の時間となるかどうか、グループを大きく2つに分けるべきかどうか悩み、不安もありましたが、皆様のご協力のおかげで、全体での活発な意見交換ができました。

加えるとよいと思われる活動

- 学内見学と交流を行うには少し時間があわただしかったように思います。

4. プログラム主催者・担当者

●国際連合大学

サステナビリティ高等研究所

事務局長 古田 知美

11月14日から8日間という限られた中で、東京、横浜、京都の3つの地域を訪問し、学校や教育文化施設への訪問していただきました。私は、生徒の56%が外国籍または外国につながる児童が在籍している横浜市立南吉田小学校及び日本語支援拠点施設の訪問に随行しました。

言語も含めて、多様性のある児童の教育にはご苦労もあるかと思いますが、校長先生のご説明の中で「他の学校と同じなんですよ」と言えるまでの環境を整えられた教育関係者の皆様に敬意を表するとともに、私自身、大変勉強させていただきました。訪問団の参加者も、中国語を話せる児童との交流に目を輝かせて、暖かい交流を深められていました。

今回の招へいプログラムによって、中国の教職員の皆様に日本の教育制度をご理解いただくばかりではなく、日本の学校関係者や児童生徒との交流を通じて、日本と中国の教育交流の推進に今後ともご尽力いただけることを願っています。

本プログラムの実施にあたり、お忙しい中、学校教育現場や教育機関をご視察いただくために、多大なご尽力を賜りました日本・中国の関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

●公益財団法人ユネスコ・アジア文化

センター 人物交流部 部長

進藤 由美

桜美林中学校・高等学校、横浜市教育委員会及び横浜市立南吉田小学校、小机小学校、日限山中学校、日本語支援拠点施設等教育機関の皆様、京都教育大学附属桃山中学校、京都産業大学の皆様、この度は中国教職員訪問団を暖かく迎え入れてくださり、ありがとうございました。

今年の中国教職員招へいプログラムは、昨今日本の教育現場が取り組んでいる課題の一つ、「多様性の尊重と多文化共生」がテ

ーマであったように思います。多くの外国籍の子ども達へのケアが求められている横浜市の取組は、これからの日本の教育のあり方を示唆するような先進的な内容であったと思います。また、多くの外国人観光客を受け入れている京都では、学校訪問だけでなく、京都ならではの観光や文化体験にもご参加頂きました。

本プログラムが、日中両国にとってお互いの理解を深めるきっかけとなるよう、そして互いの交流が継続されるよう今後とも事業運営に力を注いでいきたいと思っております。

●公益財団法人ユネスコ・アジア文化

センター 人物交流部

高松 彩乃

今年は、北京および陝西省・四川省・浙江省の4つの地域から約30名の教職員を招へいし、東京・横浜・京都と3つの地域を訪問しました。私は東京および京都のプログラムに担当者として随行しました。

今回のプログラムで特筆すべきことは、3つの地域全てで2017年の5月に中国政府日本教職員招へいプログラムを通して訪中した先生の学校を訪問できたという点です。中国を訪問した先生が、自らの目で見た中国を子どもたちに語り、実際に中国の先生が学校を訪問するという素晴らしい交流の循環が起こっていると感じました。次回以降のプログラムでも、この循環が続いていくようにACCUとして尽力してまいります。

最後に、プログラムの実施にあたり多大なご協力を賜りました全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

●公益財団法人ユネスコ・アジア文化

センター 人物交流部

河口 枝里子

昨年に引き続き、本プログラムを担当させていただき、横浜市教育委員会の受入れの担当者として随行しました。

中国教職員訪問団を迎えるため、各受入れ機関では長期間にわたり、各学校の教職員や子どもたちとともに綿密な準備をしてくださいました。訪問当日は、大きな声で、

「ニイハオ」と元気に挨拶をする子どもたちに対し、訪問団は自然と笑顔がこぼれていた様子、また全校生徒が中国語で「トトロ」を歌い、それに対して訪問団から中国語で「幸せなら手をたたこう」を歌のプレゼントをした様子を見ることができ、大変感慨深いものでした。

お互いの教育を学び合うことはもちろんのこと、お互いに歩み寄ろうとする時間があつたことに、本プログラムの大きな意義を感じました。多くの外国人や外国人観光客が日本国内で増えています。多様性や相互理解といったことが益々重要となっていく中で、ACCUとして今後も国際教育交流事業に尽力して参りたいと思います。